

③文化財保全・研究分野

（保存活用）

- 所有者の高齢化が顕著な登録文化財などで伝統的建造物の空き家化を制御するために、今後の維持管理を有効に行うための仕組みづくりを検討する必要がある。
- 山桜や里山の保全活用への理解と関心を深め、直接保全管理や調査に関わることで地域が取り組みやすい環境整備を進めながら、農林業者や地域コミュニティだけでなく、ボランティアや活動指導者の育成、土砂災害対策等も含めた技術研修など人材育成に取り組む必要がある。
- 地域の担い手のほか、市民、企業、専門家、NPO等、多様な主体の参加による土地利用や山桜や里山保全活用を推進し、土地所有者や行政区などの地域の主導的な環境整備や管理に対して支援を行いながら、自主的・継続的な取り組みを促進する必要がある。

（官学連携機関や樹木診断専門家との連携強化）

- 文化財指定地のサクラについて、茨城県立真壁高等学校と連携し樹木診断を行うとともに、専門家との連携を図りながら倒木や枯死の危険性のある樹木の特定や「名勝・天然記念物のサクラ年間管理計画」による樹勢回復や植栽環境改善作業に取り組む必要がある。

【重要業績指標】

山桜の保全活用に関わる人材育成数 25 人（R4）【ヤマザクラ課】

桜の里づくり支援事業 14 団体（R4）【ヤマザクラ課】

樹木診断、植栽環境改善作業（毎年度実施）1 件（R4）【ヤマザクラ課】